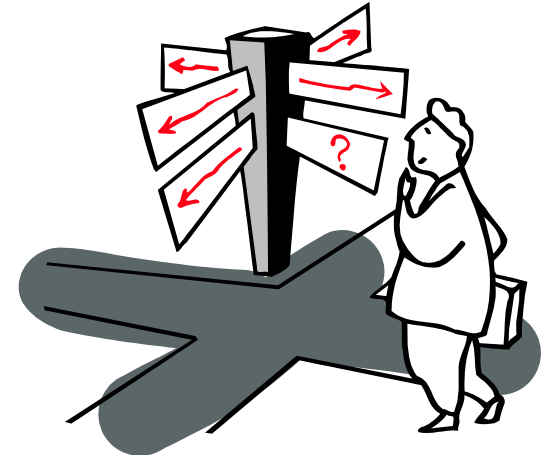


里山資本主義と日本の未来

2014年12月4日

株式会社 日本総合研究所 調査部 主席研究員
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

もたに
藻谷浩介 kosuke@motani.com



日本の足を引っ張る限界とは？²

？ **国際競争**で負けている。

？ **経済成長率**が低すぎる。

？ **デフレ**で**物価**や**地価**が上がらない。

◎ **子供の減少**で社会が縮んでいく。

◎ **エネルギー**の使い捨てに限界が来た。

◎ **貯金**が消費に回らず**循環**しない。

◎ **土地建物**が再利用されず空いていく。

日本の足を引っ張る限界とは？³

？

「もっとマネーを稼げば問題は解決する」

「マネーの世界で負けたらもうおしまいだ」

というのは、似非科学由来の強迫性妄想

？

上がらない。

妄想に囚われる人の発想法：

① この世はお金と資源の奪い合いだ！ 奪い合いに勝てないと食べ物にされる！ という強迫観念がある

② 自分より先に競争に敗けて食べ物にされる人や国を見て、同情せずむしろ安心する！（→格差も容認）

③ 不安でたまらずお金と不動産にしがみつく

土地にしがみついていく。

日本の足元を揺るがす原因とは？⁴

ところが、日本の本当の問題は、お金がないことではなく
お金ばかり稼いだあげくの循環・再生の失敗

- ① 子供の減少 = 人口の再生の失敗
- ② 再生できない化石燃料・核燃料を現世代で先食い
- ③ 富裕層の貯金が「内臓脂肪化」して消費に循環せず、
(← 勝者で居続けたい富裕層が、お金を死ぬまで金融投資)
代わりにお金をばらまく役の政府は、借金が空前の額に...
- ④ 地権者が売却も賃貸もせずに空き地・空き家を放置

財産にしがみつくあなたの強迫観念 → 循環再生
の失敗 → 若者の所得減 → 出生減
→ 消費不足で「不景気」続く

土地が... 空いていく。

“里山資本主義” とは何か？

5

「マネー資本主義」の欠陥を補うサフシステム（保険）
資源＋お金＋善意を循環させ、経済を元気にする

！ 里山や離島に眠る、金銭換算すると無価値の資源

①耕作放棄地、②立木、③半端毛/農産品、④退職者、⑤野獣...

！ でもそれを資本として活かすと、水 / 食料 / 燃料
＋αを自給＋物々交換できる（←農山漁村では常識ですが...）

① 食糧＋エネルギーの自給率向上で、外に出て行くお金が減る
② 物々交換で絆が強まる ③ 自給＋絆で、天災に強い地域となる

！ 無価値の資源を資本として活かすと、工夫次第で外から
もっとお金を稼げ、そのお金を地域内で回せる

④ 6次産業がしみじみと外貨を稼ぐ ⑤ 地消地産（＝地元民と観光客が、地元産を消費すること）で、その外貨が地域内で回る
⑥ 地元産自然エネルギーを都会に売る ⑦ 若者の雇用が増える

妄想から自由になる 里山資本主義的発想法：

- ① お金と資源の奪い合いに狂奔せずとも、「里山を食い物にする」ことで、豊かに生きて行ける
- ② 里山は多くの人口は養えないけれど、金と地位に釣られた人が出て行く分、新規参入は大歓迎
- ③ 自然相手に、人間同士の勝ち負けは無意味
→ お金より人の絆、学術より生活術

！ じゃあ
+ αを自給

(農村では常識ですが...)

① 食料

②

里山資本主義で 循環・再生へ

が減る
となる

- ① 絆と里山の恵みが、子育て負担をやわらげる
- ② エネルギー自給の拡大で化石燃料依存症を緩和
- ③ 自給による安心感が消費と実物投資を拡大
- ④ 空家と耕作放棄地を再利用

④ 観光客

⑥

地元産品

で回る
雇用が増える

マネー資本主義と里山資本主義⁷

マネー資本主義

動機

自分が、いま、一番になる

目標

お金儲けの一番を目指して
際限なく稼ぎ、貯め込む

戦略

粗暴バージョン：
他者/他集団から奪い取る

知能バージョン：
未来/次世代から搾取する
← 簿外資産を浪費して蓄財する
(地下資源、水、土壌、大気、子供、絆...)
← 借金や汚染物質を後世に残す

手法

等価交換 / 金融投資
自由競争 / リスクの個人化

里山資本主義

社会が減びずに続いていく

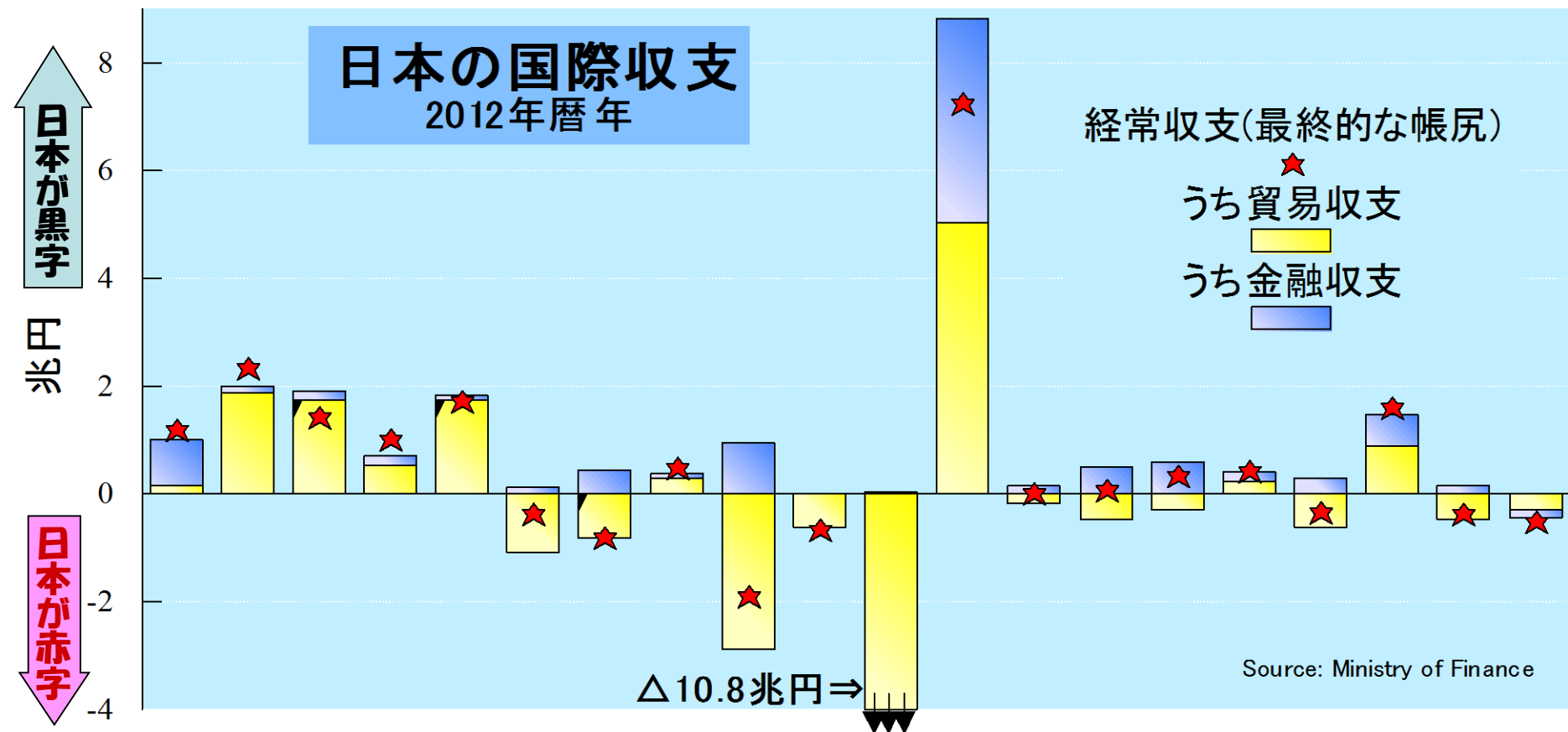
代わりのない中継者になる
= 稼いでは回しバトンをつなぐ

素朴バージョン：
何でも自給自足する

成熟バージョン：
循環・再生が可能な範囲で
ほどほどに稼ぎ、使う
← 使ったものは元に戻す
← いっつと清浄な環境を残す

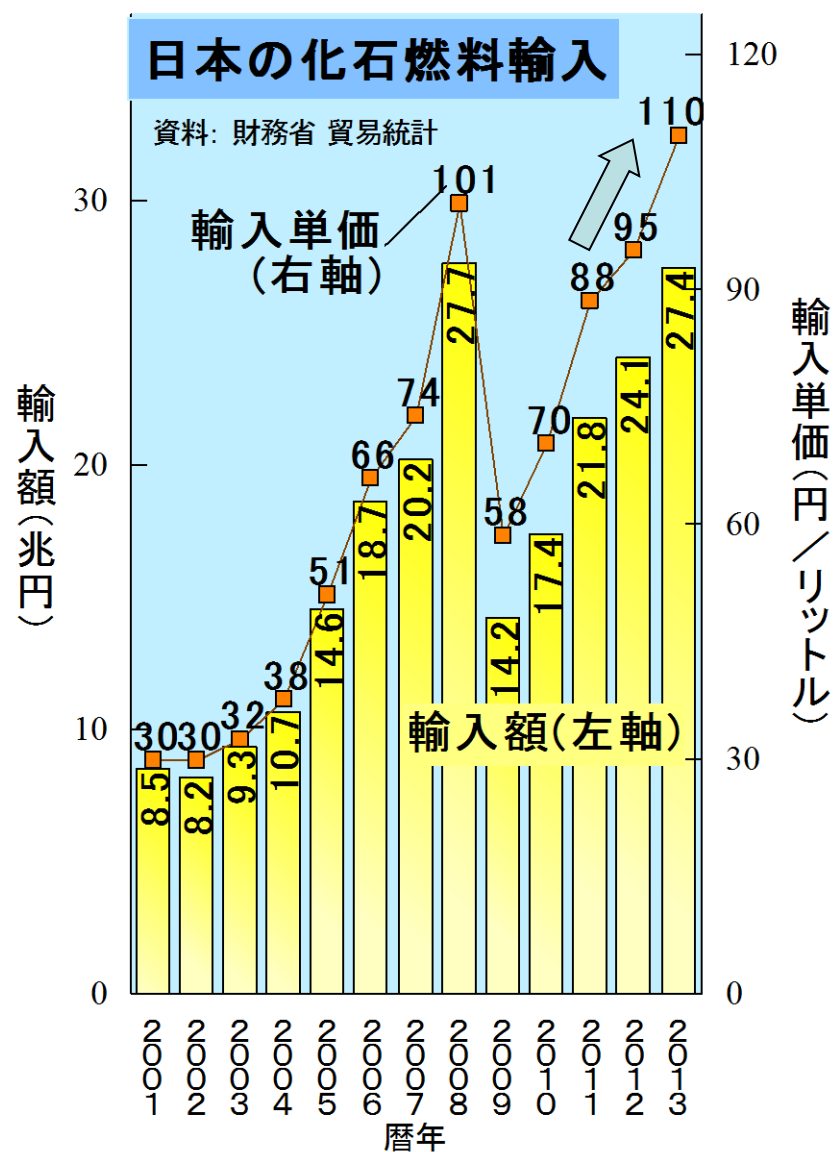
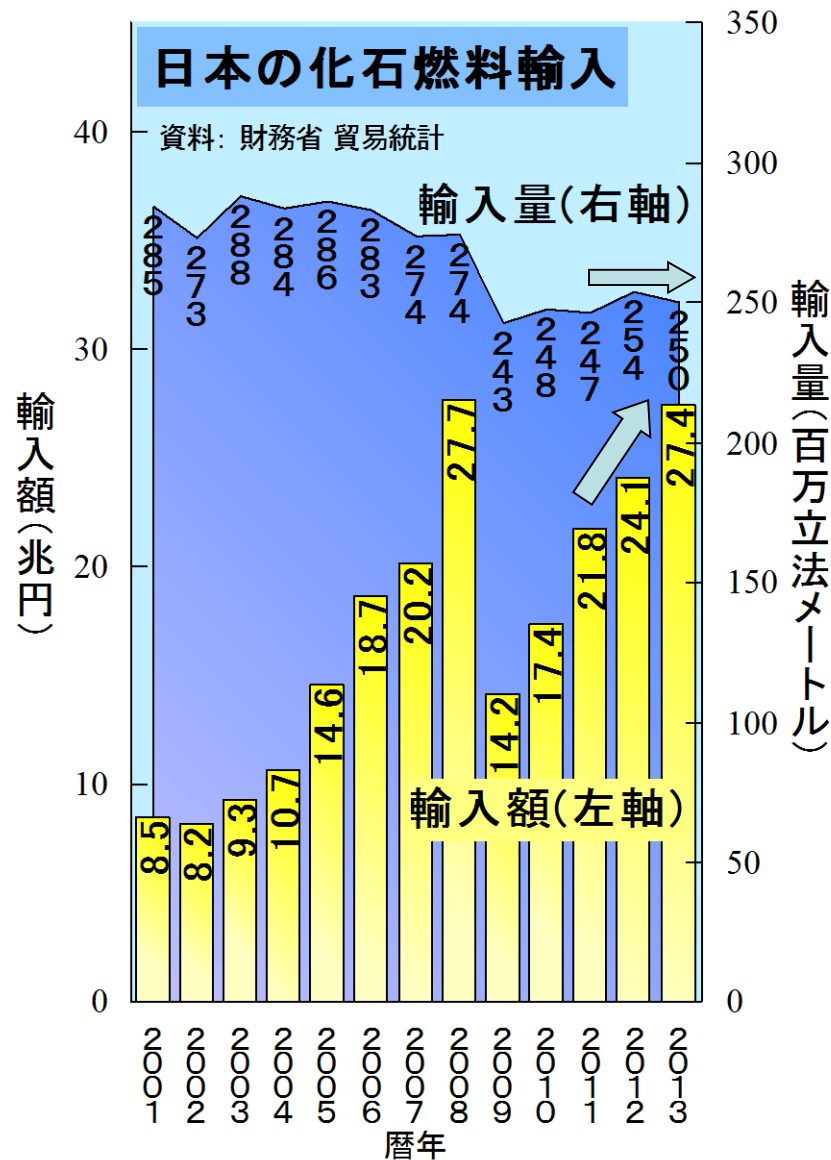
物々交換・贈与 / 実物投資
協働 / リスクの社会化

どこから稼いでどこに貢いでいるのか⁸



化石燃料輸入額増加の原因は 原発停止ではなく、輸入単価の上昇

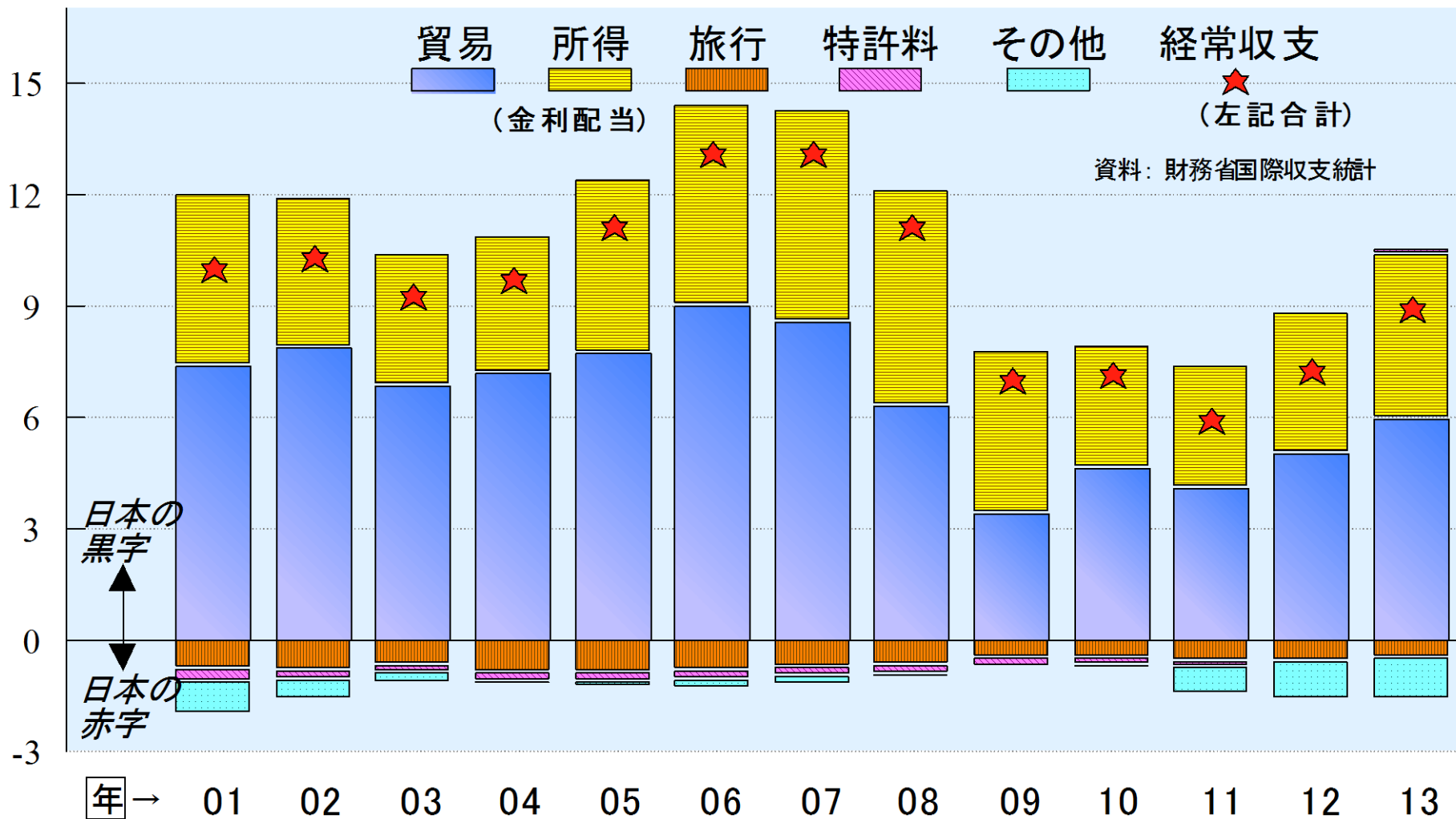
10



アメリカから稼ぎ続ける日本 11

日本の国際収支の推移：対 米国

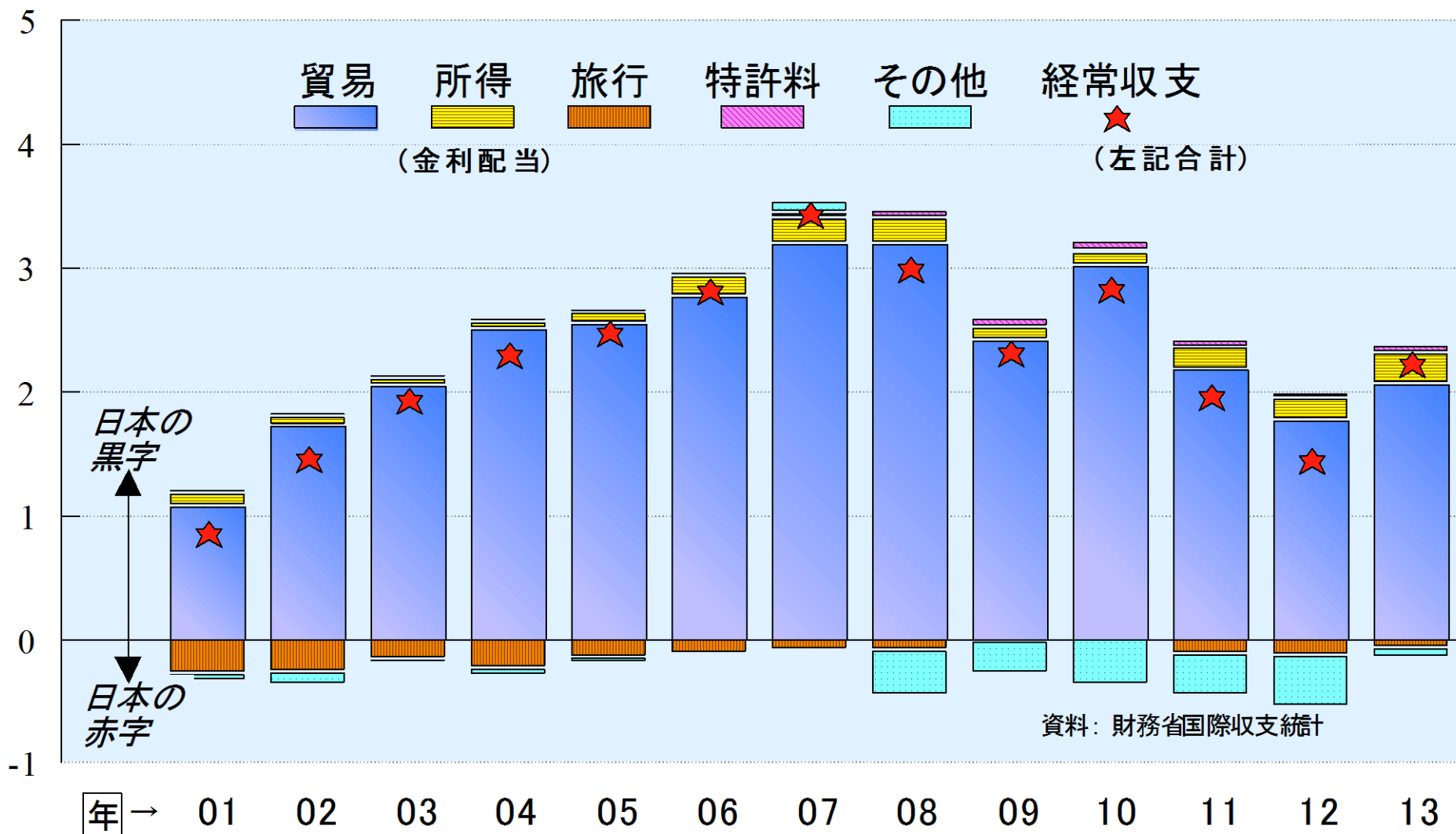
兆円



韓国からの稼ぎも減っていない¹²

日本の国際収支の推移：対 韓国

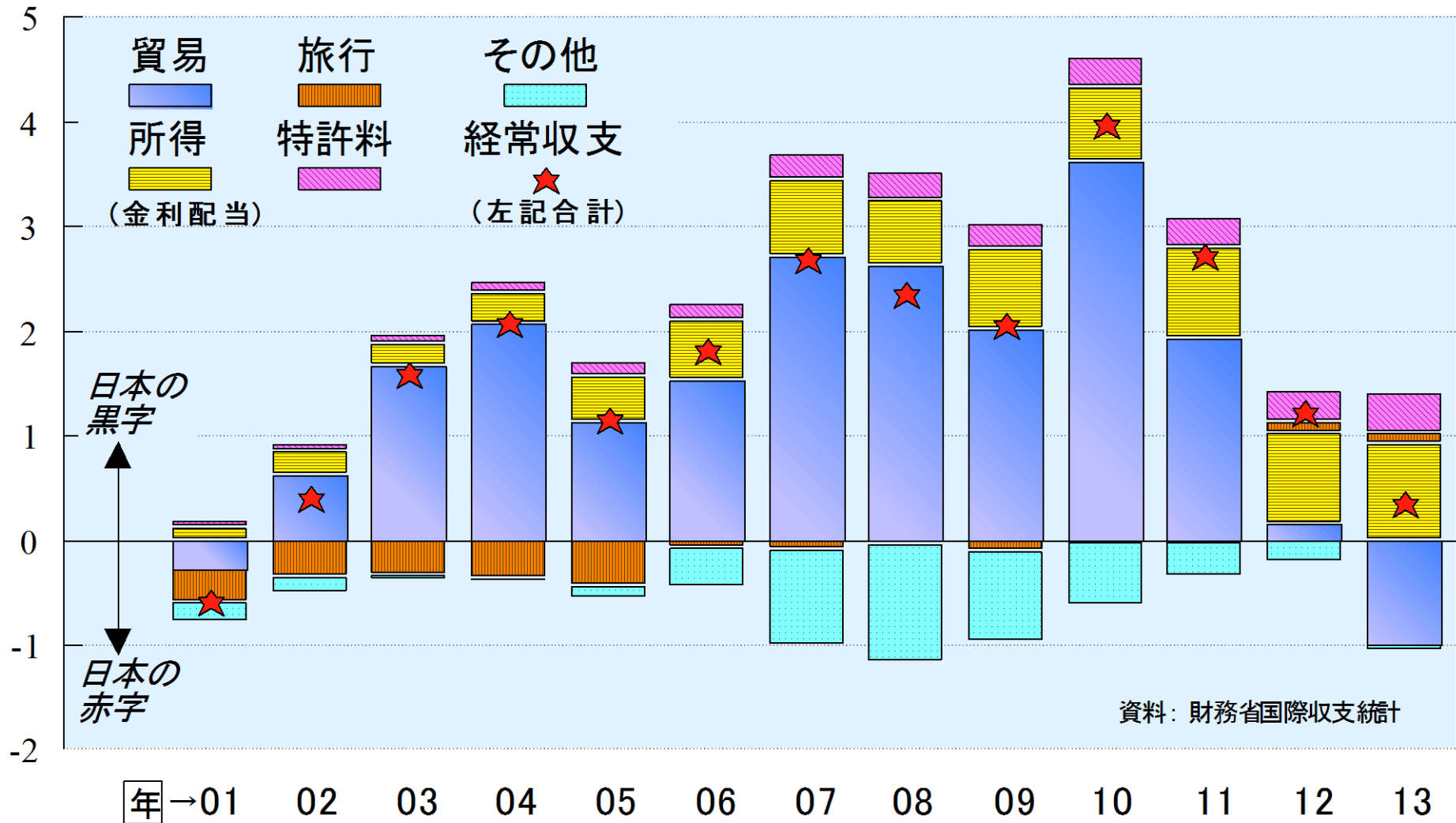
兆円



しかし円安で12年ぶりの対中赤字

兆円

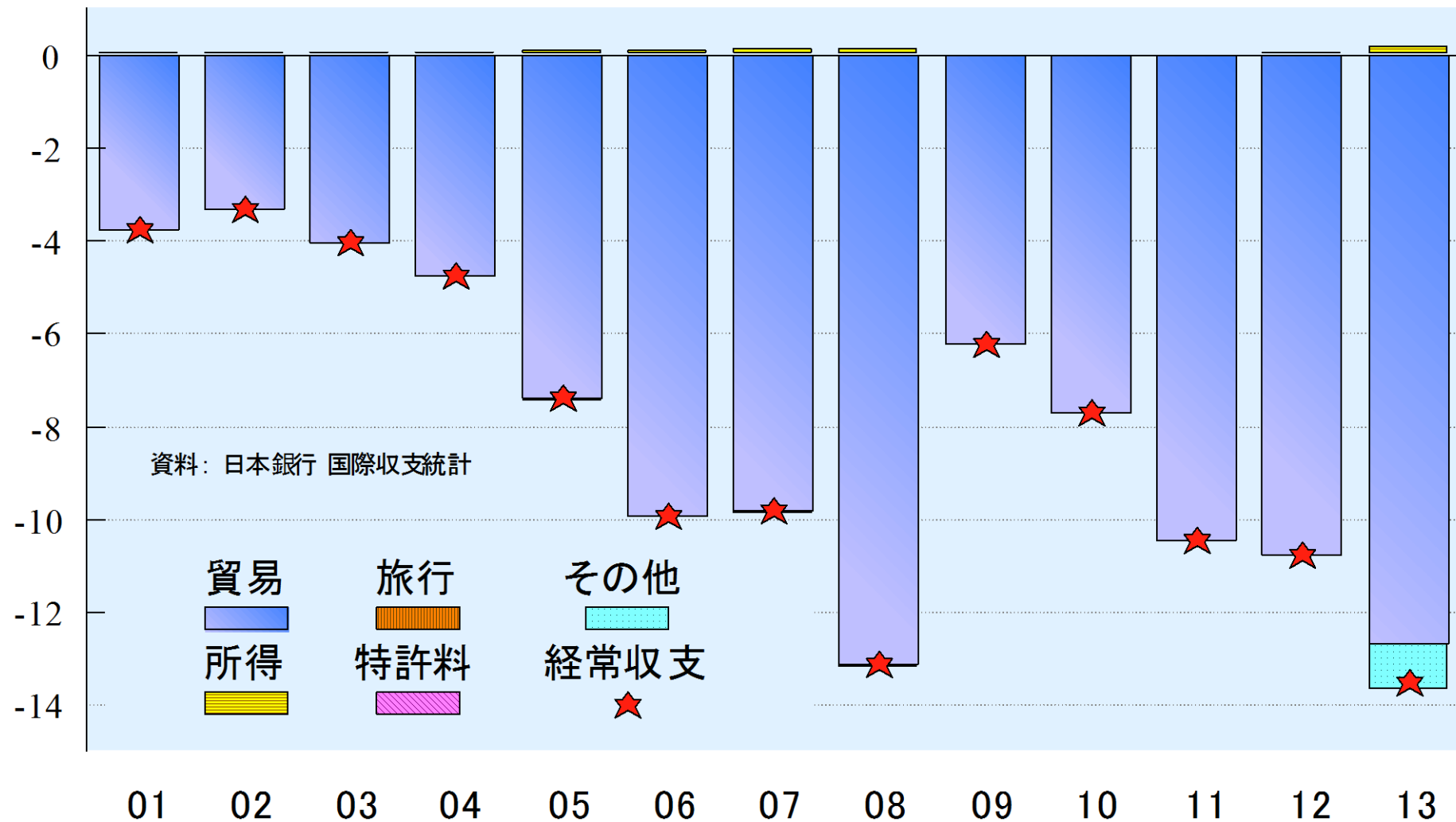
日本の国際収支の推移：対 中国+香港



円安で対中東の赤字も史上最高⁴

日本の国際収支の推移：対 中東諸国

兆円

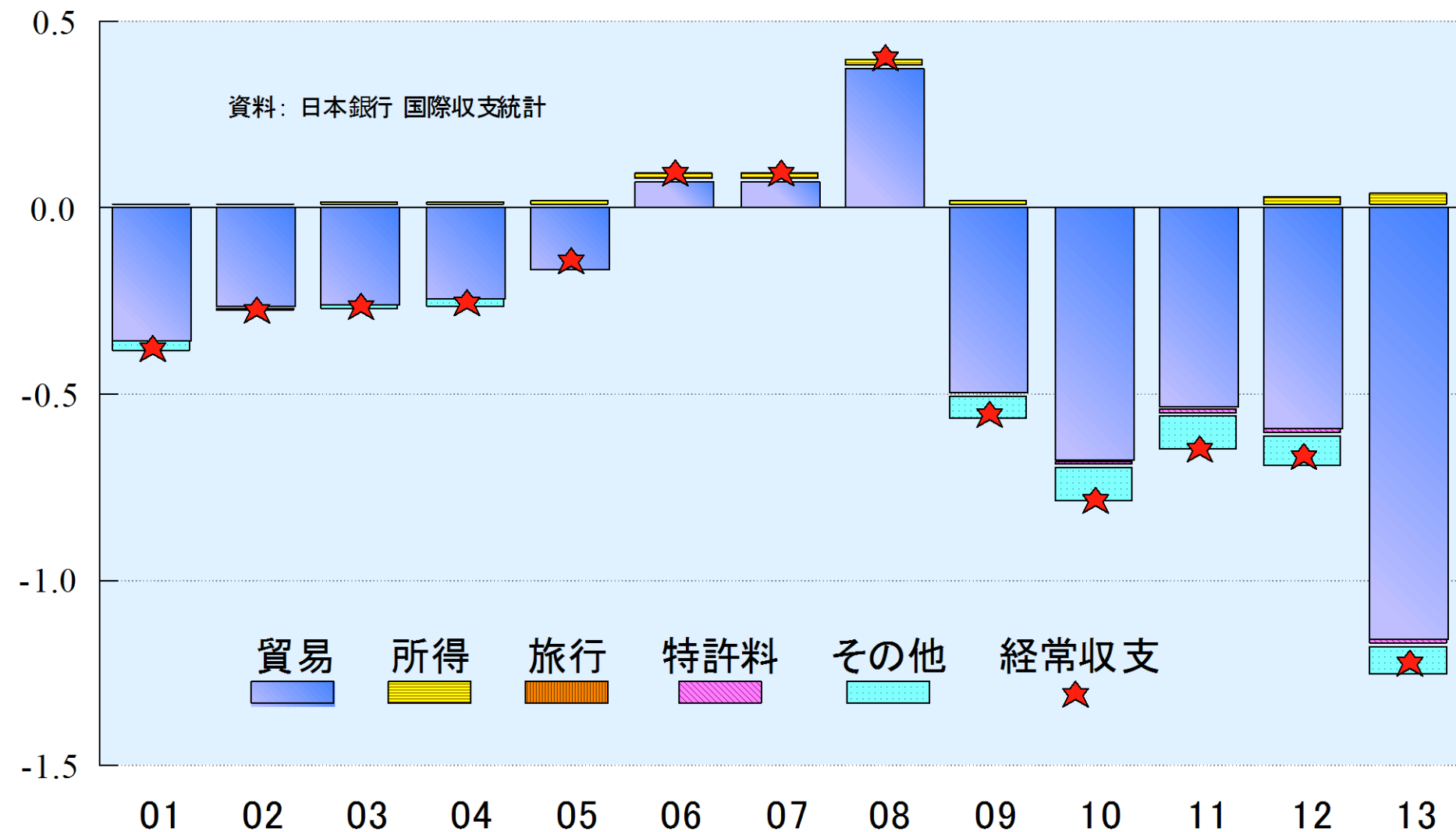


対ロシアの赤字も急拡大

日本の国際収支の推移：対ロシア

兆円

資料：日本銀行 国際収支統計



日本の「国際競争」の現実

16

- × 日本の国際競争力は、バブル崩壊以降低下の一途。
- 日本の輸出額は、震災・超円高・ユーロショックの昨年でも、バブル期の1.5倍以上の高水準。
- × 日本はアジア新興国との競争に負けている。
- 中国(+香港)、韓国、インド、台湾、シンガポール、米国等に対し、日本は貿易黒字+経常収支黒字。
- × 円安に戻れば輸出が増えて、日本経済は再生する。
- 輸入燃料の高騰で、日本の貿易は逆ザヤ。
- 輸出(=売上)が増えれば増えるほど赤字が増大。
- 円安に戻れば、燃料代増加で赤字がなお拡大。

化石燃料利用の少ない社会への脱皮が必要。

里山資本主義・エネルギーの大逆転¹⁷

× **20世紀：建物は鉄筋コンクリートか新建材フレハフ**

○ **21世紀：集成材を使った木造近代建築の時代**

- 燃えない、丈夫で長持ちで地震に強い、集成材建築が新登場
- 欧州では7階建てや9階建ての木造高層建築も増加中
- 地元産集成材を使えば、山の木が再び宝に化ける
- 集成材の副産物である木屑やチップを燃やすと、灯油より何割も安いコスト(場合により半額)で暖房や発電ができる！

ただし問題は、日本の施主がほとんど木造建築の技術革新に気づいておらず、集成材が使われず、木屑も発生しないので、発電もできないこと。

林業先進国（中欧の）オーストリア¹⁸

日本より豊かな中欧の小国：

！ 人口は中国5県程度、一人当たり所得は1.5倍

- 天然資源もないアルプスの山国だが、日本より豊か
- 日本に対しても貿易黒字（スワロフスキーのガラス工芸が有名）

！ 過去10年ほどで林業大国になった

- 年間で自然に再生される森林資源の70%を利用
- 木は集成材に加工し、低層・中層建築は木造が当たり前に
- 年間に1兆円弱の木材資源を輸出し、外貨を稼ぐ
- 林業は収入の高い職業として若者に人気

！ 自然エネルギー大国

- 木屑を使った木質ペレットの利用が普及、価格も石油の半分
- エネルギーの3割弱が自然エネルギーで自給されている
- ペレットストーブやペレットボイラーを製作する企業も成長

林業先進国 オーストリア¹⁹

日本より

首都圏も関西圏も

5倍

自然に比べて人口が多すぎるので
逆立ちしてもオーストリアにはなれない

しかし、山間過疎地なら
人口が少なく木も水も多いので
オーストリアも超えられる。

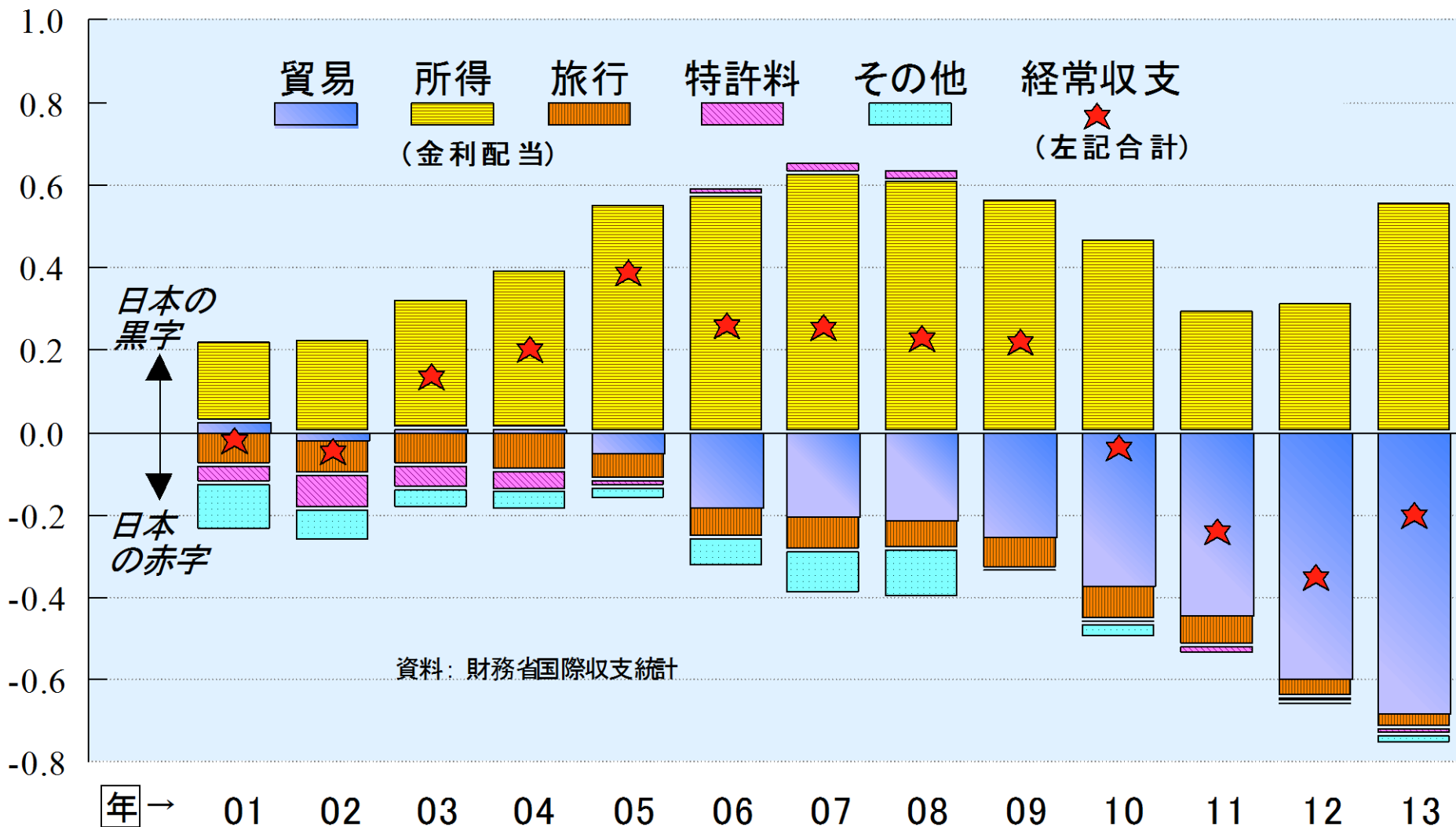
過疎だからこそできる！

- 木屑、薪、木材の半分
- エネルギーとして利用されている
- ペレットストーブやバイオガスなどを製作する企業も成長

仏に対し年々赤字の増える日本²⁰

日本の国際収支の推移：対 フランス

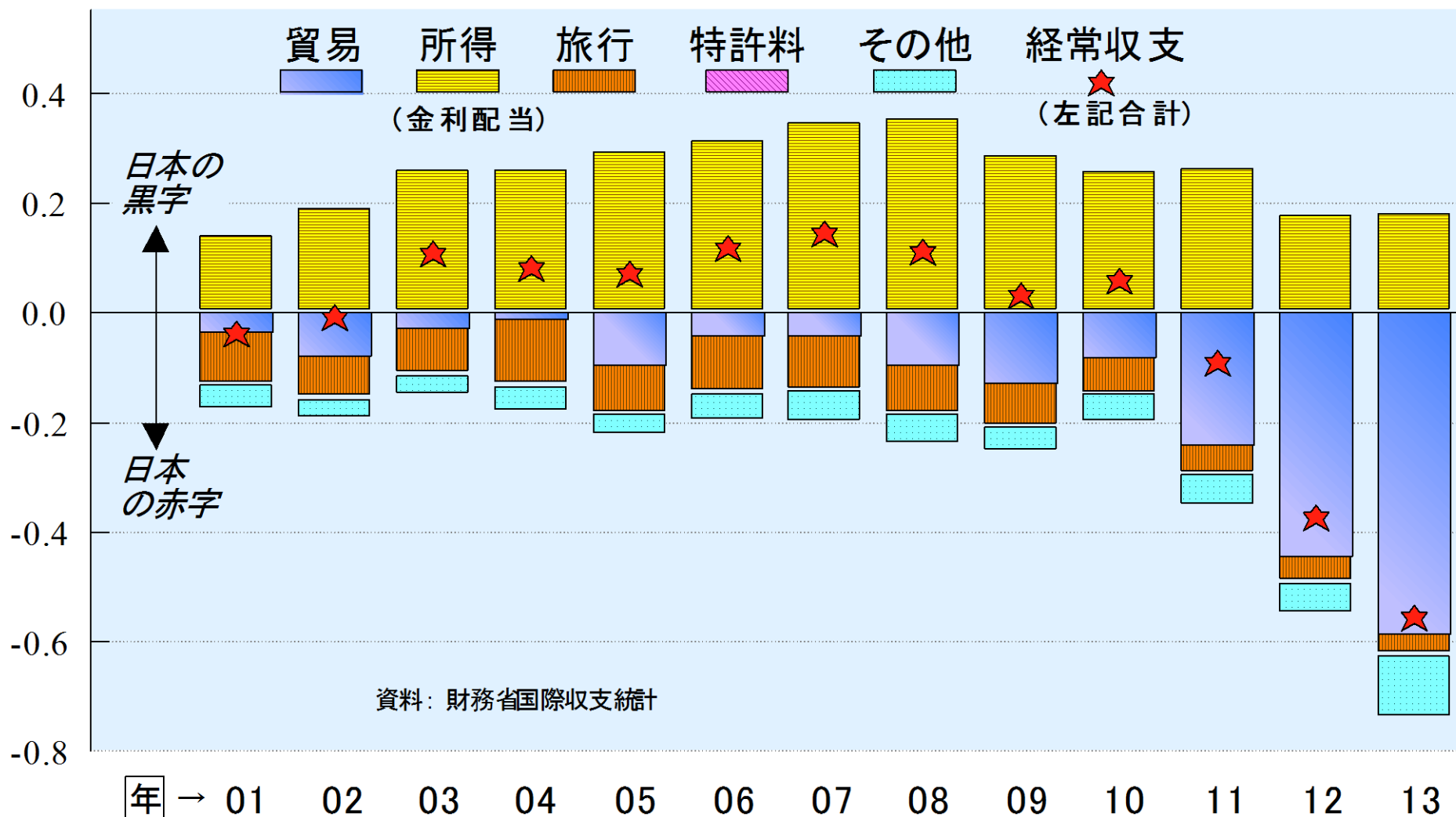
兆円



伊に対し年々赤字の増える日本²¹

兆円

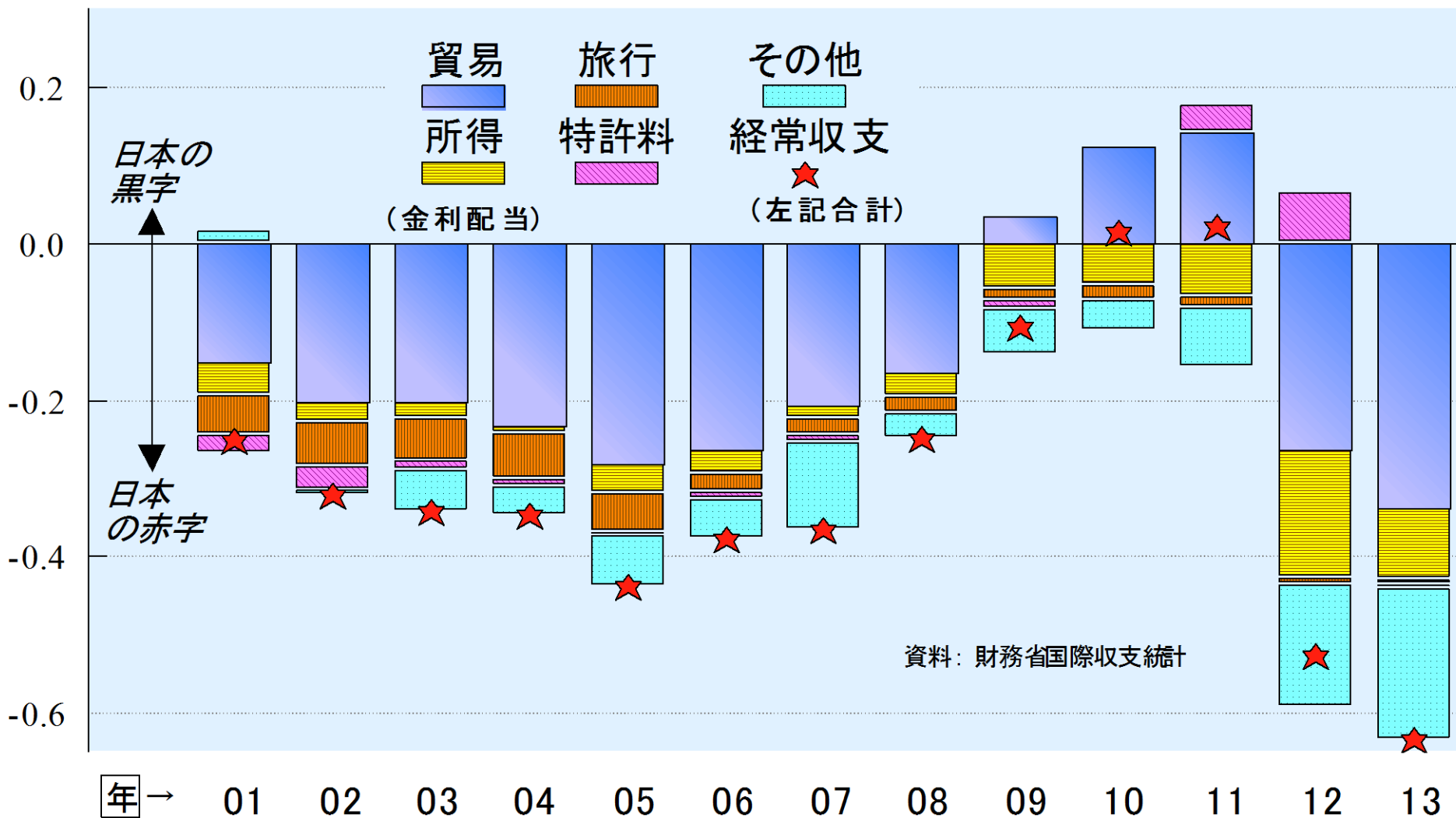
日本の国際収支の推移：対 イタリア



スイスに対しても年々赤字増大²²

日本の国際収支の推移：対 スイス

兆円



里山資本主義・産業の大逆転

× **20世紀：「ハイテク工業時代」に出遅れた田舎**

○ **21世紀：「6次産業の時代」の有望株・田舎**

→ ハイテク産業地域の苦境：商品陳腐化加速・低収益・雇用減

→ 地元の農水産品に根ざしたブランド品や集客交流は好調

→ 国際競争に強いのはスイスや仏伊など6次産業の強い国

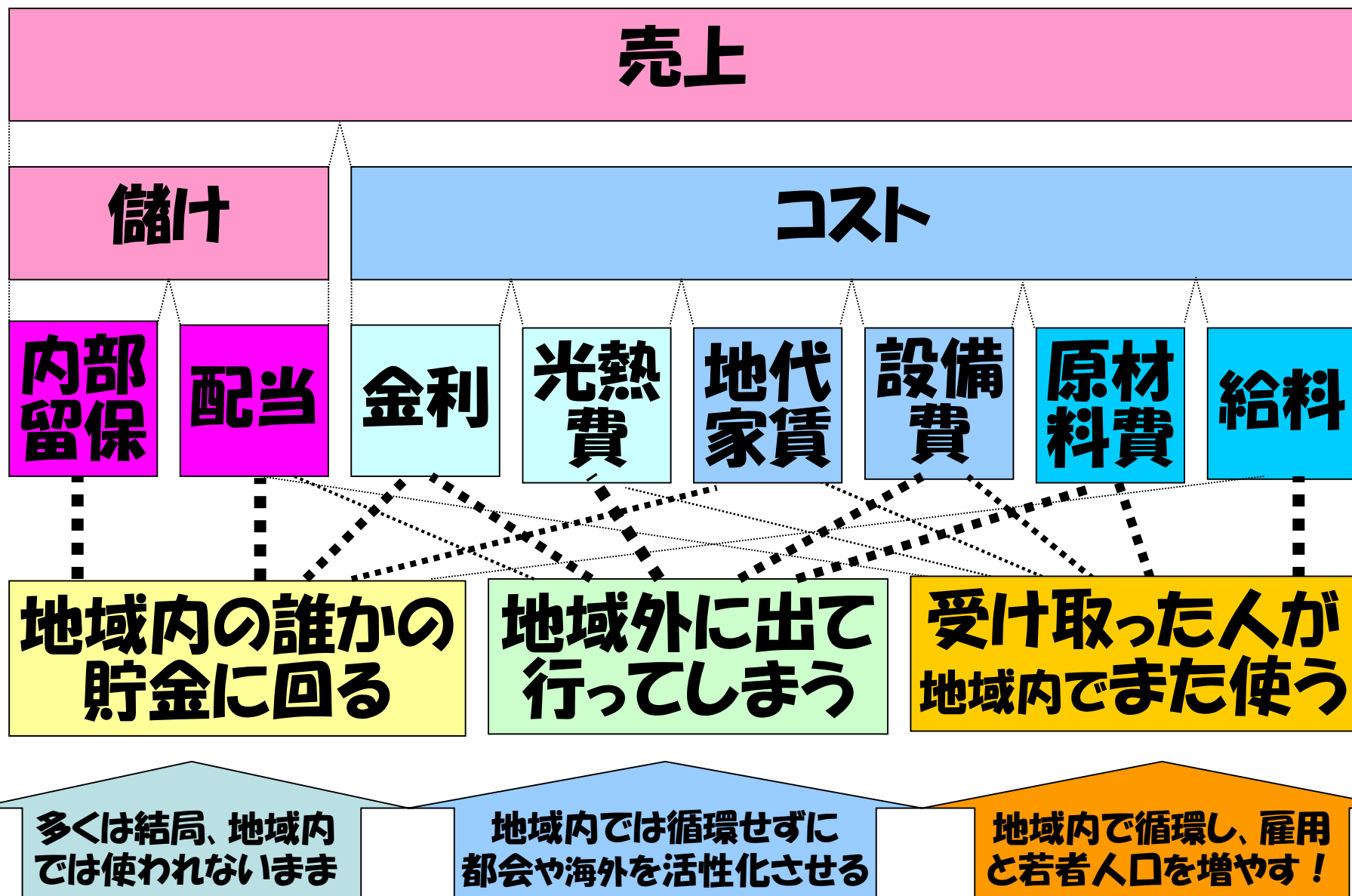
→ 当地も、里山里海の生活文化を生かしたブランド確立を！

ただし問題は、その肝心の田舎の地元産品が、安い原材料として東京に出て行くこと。カギは、地元での加工、ブランド化。量から質への転換。

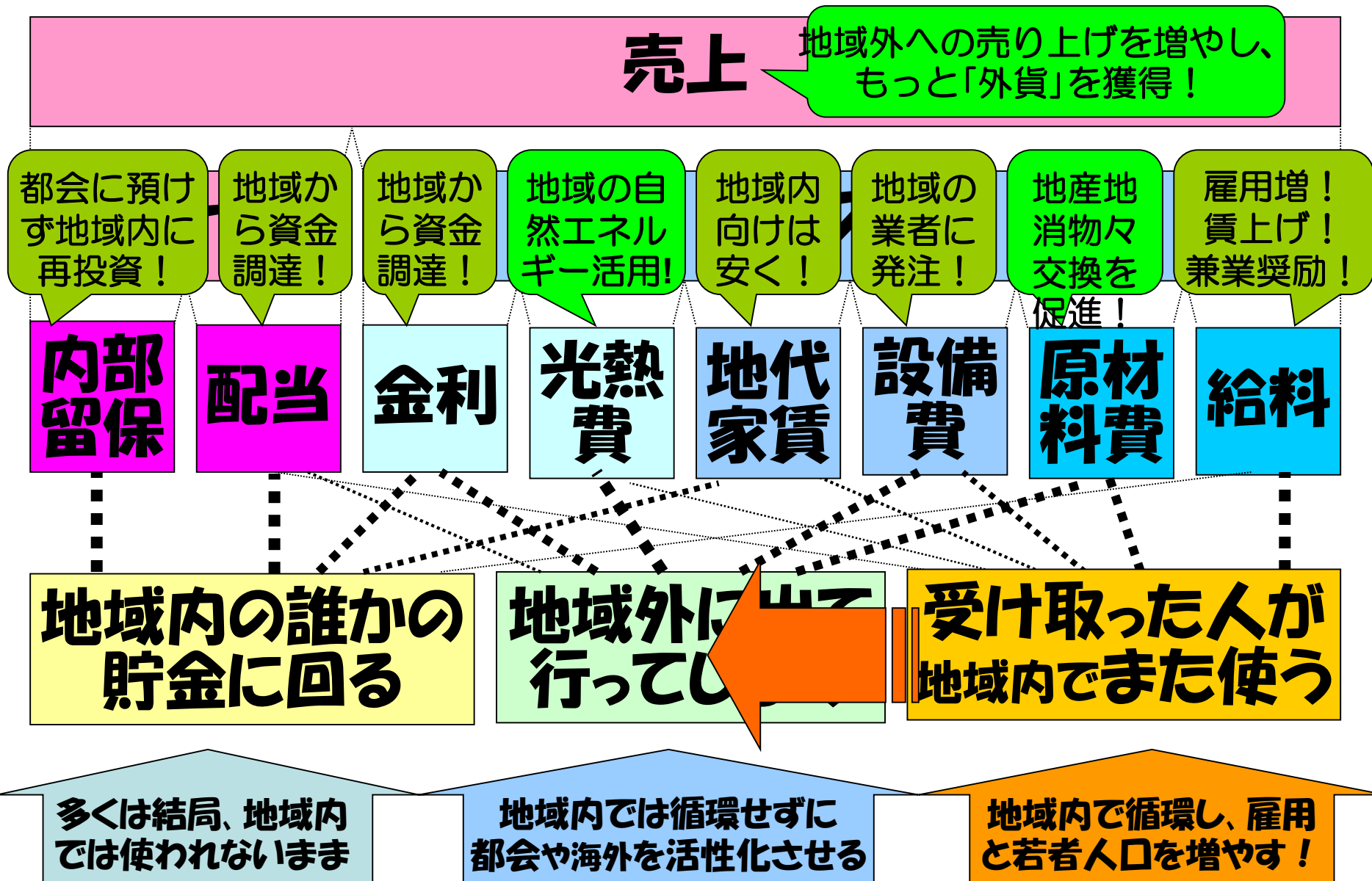
日本と各地域の産業の活路

- × 円安とインフレ誘導によるデフレ脱却と景気回復に期待する
 - 円安は輸入食材や燃料価格を高騰させるので、経費が上昇し、多くの企業の収益は悪化する
 - 経費の増加を価格転嫁できない企業には、「インフレ」は単なる経費アップでしかない
- × 誰よりも安い価格を提供し、他が先に価格競争でつぶれていく中で、歯を食いしばって生き残る
 - 皆がそうすれば地域・業界の全体が赤字に沈む
- 客数が減る中で生き残るのは「値上げの天才」のいる地域・企業
 - 品質重視の客層相手に、十分利ザヤの取れる、ブランドのある商品・サービスを売って生き残る

地域外に出て行くお金を減らそう²⁵



地域外に出て行くお金を減らそう²⁶



地域から 日本人1人当たりの 年間のも/消費は110万円 27

日本人1人当たりの
年間のモ/消費は110万円

→ その1%=1万円 地元産品消費を増やせば
人口10万人なら + 10億円が地元経済に回る

→ 給与+福利厚生500万円/人の
雇用を200人分増やせる

内部
留保

配当

金

賃金

原材
料費

給料

日本人1人当たりの
年間のエネルギー支出を50万円とすると

→ その1%=5千円だけ省エネを進めれば
人口10万人なら + 5億円が地元経済に回る

→ 給与+福利厚生500万円/人の
雇用を100人分増やせる

多くは結局
では使われない

し、雇用
人口を増やす!

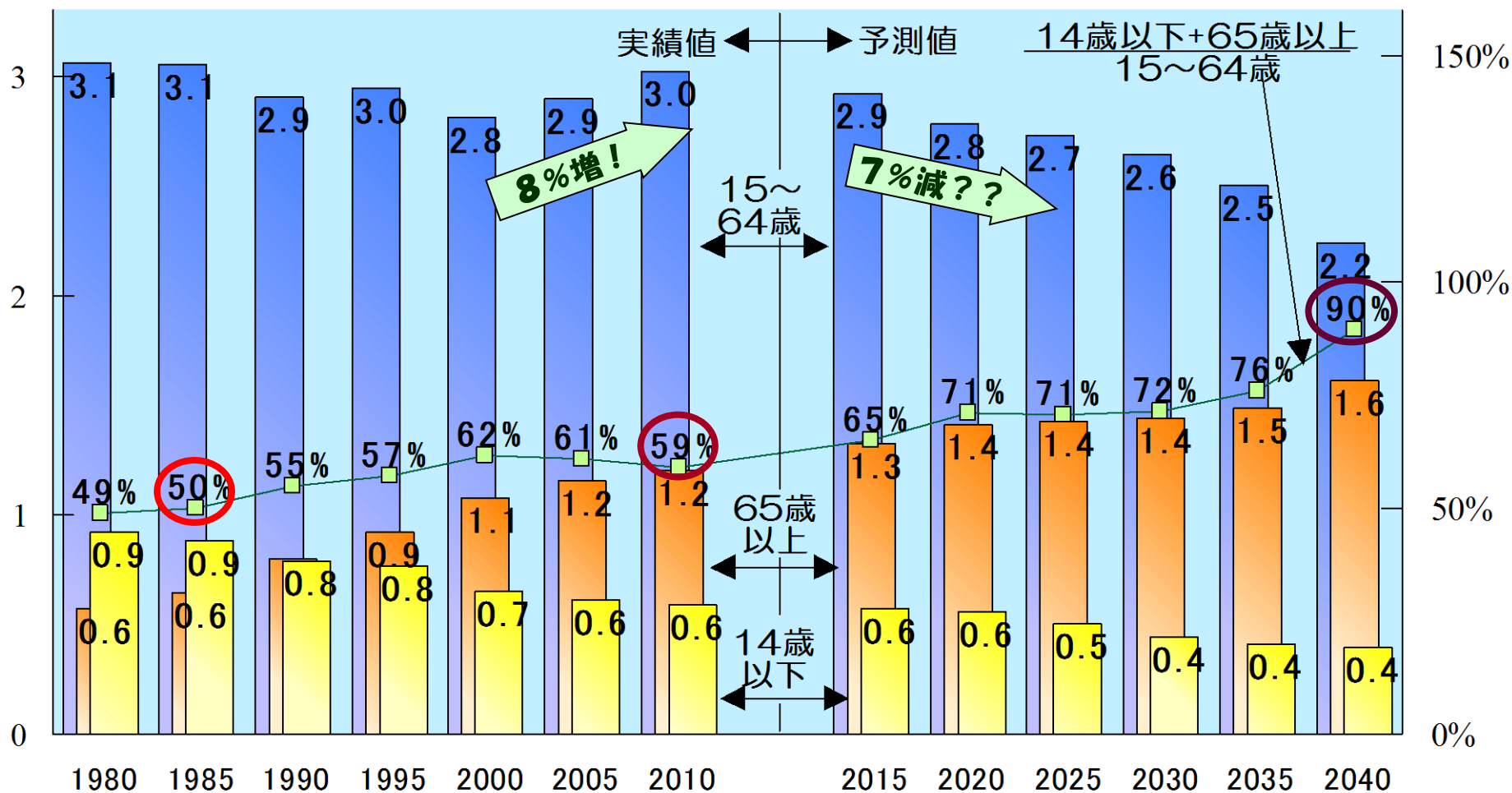
現役世代が増えているニセコ町

年齢階層別にみたニセコ町の在住者数（1980-2040）

千人

実績：国勢調査（2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正値）
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



現役世代人口の増加とニセコ町

年

外国人観光客の増えるニセコで
現役世代人口が増えているのは

40)

含む

「地域でお金が回っている」から

① 客数ではなく滞在日数＝客単価の拡大

② 単価のうち地元に落ちる部分の拡大
＝ 地元原材料使用、地元民給与アップ

③ 貯金の地域内への再投資

④ 工事の地域内への発注

千人

3

2

1

0

1980

1985

1990

1995

2000

2005

2010

2015

2020

2025

2030

2035

2040

0%

50%

0%

「里山資本主義」的地域活性化を³⁰

① 安さでは勝負せず高品質の商品で外貨獲得:

当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量・高単価の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外から稼ぐ(=「いま」「ここ」にしかないものを売る)。

② お金と遊休資産をもっと地域内でぐるぐる回す:

地域内産の食材、建材、人材の質を上げて地元で使い倒し、未就労女性や障害者を雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励し、空き不動産は安く賃貸する。

③ 省エネ・新エネ投資でエネルギー代を大幅削減:

建物の改築・断熱改修を進めて大幅な省エネを実現。建材にはなるべく地元産材を使い、木屑を燃料利用。小水力・風力・地中熱・廃油・廃熱を余さず使う。